

## 第五回（株）有線ブロードネットワークス番組審議会 議事録

開催日時：平成 14 年 4 月 24 日 11：00～

開催場所：（株）有線ブロードネットワークス本社 13F  
プレゼンテーションルーム出席者 委員：小林亜星、大島綾子、有馬祐行、青木寶久、池田憲一、山本武司、渡辺英夫（順不同・敬称略）  
放送局側：9 名

## 議事内容

## 1. 会社動向及び報告事項

## (1) 会報誌関連の変更

平成 14 年 4 月より、弊社顧客への一層のサービス提供の充実をはかるため、会報誌の提供形態を変更した。従来の弊社顧客向け総合会報誌「Music Pleasure」に加えて、ビジネスユース向けの会報誌「CLUB USEN」の提供を開始した。以上の変更を行うことにより、個人ユース・ビジネスユースに対してより特化した形でのサービス提供が可能となった。

## (2) 番組内容の変更

BF-19、BF-20CH の ROCK 系番組の在り方を検証した結果、従来の「U.K.ROCK」「American ROCK」という地域・文化的観点での構成から「ROCK CLASSICS」「ROCK」という、時代的な観点での構成に変更した。また、昨今の業界動向、地元地域に特化したコンテンツの必要性を踏まえ、A-18CH を「らじカラ U!」から、沖縄に古くから伝わる民謡のイメージを持った楽曲や伝統楽器を用いたバンドの楽曲を紹介する「ハナハナ島唄」へ変更した。

尚、音楽番組以外のコンテンツの強化・充実をはかるため、平成 14 年 5 月 1 日より、C-36CH、I-28CH においてラジオたんぱ第 1/第 2 放送の同時再送信を開始することとなった。

## 2. 番組課題

## (1) 1940 年代～現代における音楽史全般についての討論

## (2) 中高年向けの番組全般についての討論

## 3. 番組審議

- クラシックの分野において 1955 年頃からの約 30 年の間にコンサート・ホールでのライブ演奏が非常に盛んであったが、その頃のコンサート・ホールでの体験を彷彿させるような番組づくりを提案。
- 最近の傾向として、深夜時間帯の認識が変わってきているようにも感じ取れる。深夜時間帯の編成を「若者の時間」のみとして捉えるのではなく、「中高年世代の時間」として捉えるなど今後の編成に期待する。
- 「体験」としての過去の音楽をストレートに放送するのではなく、過去の素材を流用しながらもその中に現代風のストーリー性や企画性を持たせた番組づくりをしてみてもどうだろうか。例えば、過去に放送された有名なラジオ番組等を研究してみて、その番組を現代風にアレンジした構成にするなどの企画性を持たせた番組づくりが必要である。
- 現存する楽曲を流すだけでなく、「どのような経験をもってもらおうか」というような考えに基づいた番組づくりをしたほうが良いと思う。
- ジャンルを問わず、中高年齢層の印象に残る楽曲の数々に、その楽曲のエピソード等を交えて番組を放送してみてもどうだろうか。
- 様々な場所、シチュエーション等の性質、特性などを十分に想定した番組づくりが必要である。